

「わたしの胸が思い煩いに占められたとき

あなたの慰めがわたしの魂の楽しみとなりました。」

詩編 94章19節

女子聖学院中学校高等学校チャプレン 木戸 健一

1923年9月1日11時58分、関東大震災が神奈川・東京を中心とする関東地方一帯と静岡・山梨を襲いました。マグニチュードは7.9と推定され、何も推計ですが、死者・行方不明者105,000名、全壊家屋109,000棟、全焼家屋212,000棟に及ぶ巨大地震でした。被害総額は当時の金額で55～65億円となり、国家予算の1年4か月分程に当たると言われます。1995年1月17日5時56分に起こった阪神・淡路大震災は、マグニチュード7.2、震災関連死とされる約900名の方も含めて死者6,434人、行方不明者3名でした。2011年3月11日14時46分に起こった東日本大震災は、マグニチュード9.0、死者15,894名、行方不明者2,561名、3,405名の方が震災関連死と認定され、そのうち2,026名が福島県の方です。先日起こった熊本地震は、最大でマグニチュード7.3、これまでのところ死者49名、震災関連死の疑いのある方が16名、行方不明者1名となっています。このように、日本は地震の大変多い国です。地震は、起こった場所、人口密度、時刻、津波が起こったか、どんな事故が起こったかで違いがあるもの、大変な被害をもたらして来ました。今朝はその中でも人的被害の最も大きかった、関東大震災で起こったことを少し振り返って見たいと思います。

関東大震災で起こり、戦後の大震災で起こらなかったことは何でしょうか。朝鮮半島からやって来られた人々に対する虐殺行為です。それは「朝鮮の人が暴動を起こす」という嘘の情報によって引き起こされました。犠牲となられた方は、2,000名とも6,000名とも言われています。先程、拝読しました聖書の箇所にあります「思い煩い」とは、自然災害がもたらすものであるよりも、人間がもたらす人災によるものです。自然災害が人に「思い煩い」をもたらすのは当然です。しかし関東大震災では、人間による「思い煩い」が、自然災害によるのではない、多くの犠牲者を生み出してしまいました。そんな不安だけでなく、狂っているのではないかとさえ思われる雰囲気包まれた9月1日の夜に起こった、一つの出来事をご紹介します。

大阪市立高等商業学校(現在の大阪市立大学)で英語の講師をしていたJ. V. マーティンは、この日たまたま東京に来ていて大震災に遭遇しました。そして被災者を見舞うために、芝白金(現在の港区白金台)にあるキリスト教学校の明治学院に向かいました。瓦礫と化した街を通り、明治学院に近づいて行ったマーティンの目に、暗闇の中に浮かぶ十字架が飛び込んで来たのです。明治学院のグラウンドには、大勢の人たちが肩を寄せ合うようにして集まっていました。9月になったばかりの、まだ暑い時期です。数は十分ではなかったでしょうが、グラウンドで夜を過ごすために蚊帳とロウソクが配ら

れていました。蚊帳の中で灯されていたろうソクの光が、十字架に見えたのです。マーティンが、その場で歌詞を書き記し、大阪に戻って曲をつけ、後に日本語に訳されたのが、今から聞いていただく聖歌397番「とおきくにや」です。以前女子聖学院にも来てくださった、久米小百合さんが歌っています。（当日の礼拝では久米小百合さんのCD『はじめのひ』所収の「とおきくにや」を流しましたが、ここでは歌詞を記載します。）

遠き国や海の果て いずこにすむ民も見よ
なぐさめもてかわらざる 主の十字架は輝けり
なぐさめもてながためになぐさめもてわがために
揺れ動く地に立ちて なお十字架は輝けり

水はあふれ火は燃えて 死は手ひろげ待つ間にも
なぐさめもてかわらざる 主の十字架は輝けり
なぐさめもてながためになぐさめもてわがために
揺れ動く地に立ちて なお十字架は輝けり

仰ぎ見ればなど恐れん 憂いあらず罪も消ゆ
なぐさめもてかわらざる 主の十字架は輝けり
なぐさめもてながためになぐさめもてわがために
揺れ動く地に立ちて なお十字架は輝けり

イエスさまの十字架は、人間の死と生の境目に立っています。十字架の上でのイエスさまの死によって、わたしたちは罪による滅びから、死では終わらない永遠の命へと救い出されるのです。そしてイエスさまを自らの救い主キリストとして信頼する時に、人間の罪がもたらす「思い煩い」からも自由にされるのです。

お祈りします。

父、子、聖霊なる神さま。どうぞわたしたちを、すべての「思い煩い」から解放してください。特に、人間の罪がもたらす「思い煩い」から自由にしてください。イエスさまの十字架によりもたらされた、滅びから永遠の命に至る救いに信頼し、困難な時にこそ、他者を排除するのではなく、愛する自由に生きる者としてください。今この時、熊本や大分での地震をはじめとして、災害や事故、世界の各地で起こっている紛争やテロなどために、困難と苦しみ只中にある方たちの歩みを支え、何よりもその命をお守りください。主イエス・キリストの聖名によってお祈りいたします。アーメン

2016年4月30日 高校チャペル礼拝